

稲作情報 No.23

令和8年9月25日

麦播種準備、早期秋起し

水田農業レベルアップ委員会 技術普及推進部会 [作成: 福井県農業試験場、福井米戦略課、JA福井県中央会]

- ・ 大麦の播種の目安は、10月10日～20日です。適期に播種できるように、明渠の設置等排水対策の実施など、圃場の準備を計画的に進めましょう。
- ・ 裸黒穂病などの病害発生防止のため、種子更新・種子消毒を実施しましょう
- ・ 最新の天気予報を確認し、降雨の影響を避けて播種を行いましょう
- ・ 水稻収穫後、耕耘していない圃場ではヒコバエが生長しています。稲わらの腐熟促進、温室効果ガスの発生軽減、こぼれ粃の抑制、雑草の抑制、獣害対策等のため10月中に秋起しをしましょう

【早期秋起しの効果】

①土づくり効果

暖かい時期に稲わらをすき込むことで、稲わらの腐熟促進につながり、翌年のワキの発生の抑制につながります。土壌診断に基づく土壌改良資材の施用と合わせて実施することにより、さらに土づくり効果が向上します。

②環境への配慮

耕起を秋に実施することにより、温室効果ガス（メタン）の抑制につながります。

③翌年の雑草、異品種発芽の抑制効果

圃場に残っているヒコバエやヒエなどの雑草の種子が成熟する前にすき込むことで、翌年の発芽数の抑制につながります。

④鳥獣害対策

圃場に残っているヒコバエはイノシシやシカの餌になります。早くすき込むことで、鳥獣の餌を減らせます

⑤ニカメイチュウ対策

秋起しにより、稲株の残渣を除去することで、稲株の残渣の中で越冬するニカメイチュウの生息地を減らせます。



イノシシやシカの餌となるヒコバエ